

社会・環境活動報告書 2016

ライフコーポレーションでは、地域の皆様をはじめとする、私たちを取り巻くさまざまなステークホルダーとの関係強化に注力しています。ここでは、その取り組みについてご紹介します。

社会とのかかわり

- 食育体験学習 P21
- 社会科見学 P22

環境への取り組み

- 省エネ P23
- 3R P24・25・26

お客様とのかかわり

- 品質保証体制 P27・28



食育体験学習

伝えたい、食の大切さ

食育体験学習では、栄養士の指導で普段の食生活に不足しがちな野菜・果物など、食品の栄養やバランスの良い食事の大切さについて学習します。子どもたちに問いかけていく参加型の講義や、実際に売り場で野菜を選ぶお買い物ゲームは、スーパーマーケットならではの体験として毎回ご好評をいただいています。



食育体験学習

小学生・園児を対象とした食育体験学習では、栄養士の講義のあと、店舗の農産売り場で野菜のお買い物ゲームを行っています。また、野菜・果物クイズでは食べ物の旬についても学びます。2015年度は7,373名(首都圏:2,673名、近畿圏:4,700名)の小学生・園児にご参加いただきました。食育活動を通して、食の大切さを伝え、野菜・果物の摂取を促し、食への関心を高めていきます。



野菜・果物クイズ



「お買い物ゲーム」で、野菜を「みて」、野菜に「ふれる」



レジで金額の確認

社会科見学

子どもたちとのふれあいが、ファンを生み出す

ライフコーポレーションでは、小学生を対象に社会科見学の受け入れを行っています。普段は入れない大きな冷蔵庫の見学や、スーパーマーケット質問タイムで子どもたちは大盛り上がり。商品陳列の工夫や、お客様との関わり合いなどを熱心に学びます。



子どもたちとのふれあい

地域社会とのコミュニケーションの一環として、店舗で小学生の社会科見学を受け入れています。2015年度は16,372名(首都圏:9,163名、近畿圏:7,209名)の小学生が店舗の売り場や、普段は入れないバックヤードを見学しました。



社会科見学に参加した子どもたちから、お礼のお手紙が届きました

スーパーマーケット探検隊 日本スーパーマーケット協会の教材も大好評

訪問してくれた子どもたちに、スーパーマーケットの仕組みをわかりやすく解説した「スーパーマーケット探検隊」をお渡ししています。良い副教材になると先生方にも好評です。



スーパーマーケット探検隊



スーパーマーケットについての質問タイム

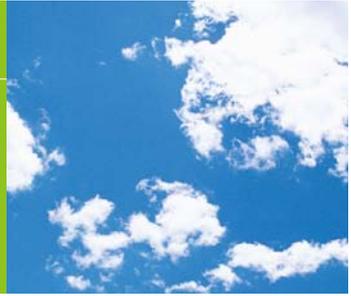


POPの説明

省エネ

低炭素社会の実現に向けて

省エネ・CO₂削減に向けて、LED照明・高効率な機器の採用に加え、ポスターの掲示や研修により従業員の節電意識を高めています。



■ 電気使用量の見える化

電気使用状況を店舗の全従業員がいつでもチェックできる見える化機器を導入。パートナー・アルバイトまで全従業員に意識付けできるよう、指導しています。



■ LEDライト

外部照明サインや非食品売り場の柱スポット照明などにLEDを採用しています。店内のすべての照明をLEDに変更した店舗もあります。



■ 照明管理



点灯箇所をわかりやすくするため、照明スイッチにシールを貼り、不要な箇所の消灯に努めています。

事務作業場の照明に、「常時消灯」・「常時点灯」・「作業時点灯」の札をつけ、無駄な電力消費を抑えるよう管理しています。



■ 温度管理

荷さばき場の安定した空調管理のため、一部店舗に可動式風防カーテンを取り付けています。



日差しの強い時間帯は売り場の窓に取り付けたロールスクリーンを下ろし、店内の温度上昇を抑制します。



店内温度は、冷房28℃、暖房20℃を維持。環境省の推奨温度に設定しています。



冷蔵・冷凍商品に扉のついたリーチインケースを使用することで、冷気が逃げるのを防止しています。



3 R (Recycle / Reduce / Reuse)

限りある地球の資源を大切に

ライフコーポレーションは、地域社会の一員として、限りある地球の資源を最大限有効に活用する取り組みを行っています。



■ 資源リサイクル(Recycle)の取り組み

地域のお客様にご協力いただき、資源のリサイクルに取り組んでいます。

牛乳パック

店頭で回収している牛乳パックは良質なパルプ資源です。リサイクル業者に依頼し、回収した牛乳パックをトイレトーパーペーパー等に再生しています。



店舗で使用しているトイレトーパーペーパーは、お客様からお預かりした紙パックを再生利用して作られています

ペットボトル

回収されたペットボトルは細かく粉碎・洗浄され、卵パックの原料になるほか、繊維に加工された後、マットや衣料品等にリサイクルされています。



リサイクルマット

アルミ缶

回収されたアルミ缶は表面の塗料・フィルムを取り除き、高温で溶かされて塊になります。それを薄い板にしてアルミ缶に再生します。

スチール缶

スチール缶はプレス処理、鉄スクラップ処理を行います。その後、製鉄所で飲料用鋼板や建築用資材の鉄筋・鉄骨などの原料となる鉄板に再生されます。

古紙

7店舗(2016年10月末現在)の店頭で新聞紙・チラシ・本・雑誌などの古紙回収を行っています。回収量に応じて専用カードにポイントをお付けしています。



古紙回収機

トレー

食品トレーは回収後、主に木くず・古紙と混合した高カロリー固形燃料(RPF)として利用されています。また、新しいトレーに生まれ変わるものもあります。



トレーリサイクルセンター

ペットボトルキャップ

NPO法人 ロータリークラブを通じてポリオ・ワクチンとして国際ロータリークラブ「ポリオ・プラス」へ寄付しています。



発泡スチロール

鮮魚や果物の一部は産地から発泡スチロールに詰められて入荷します。この発泡スチロールを集め、粉碎・減容後、板状に加工し、資源化しています。



店舗から出た発泡スチロール



廃食用油

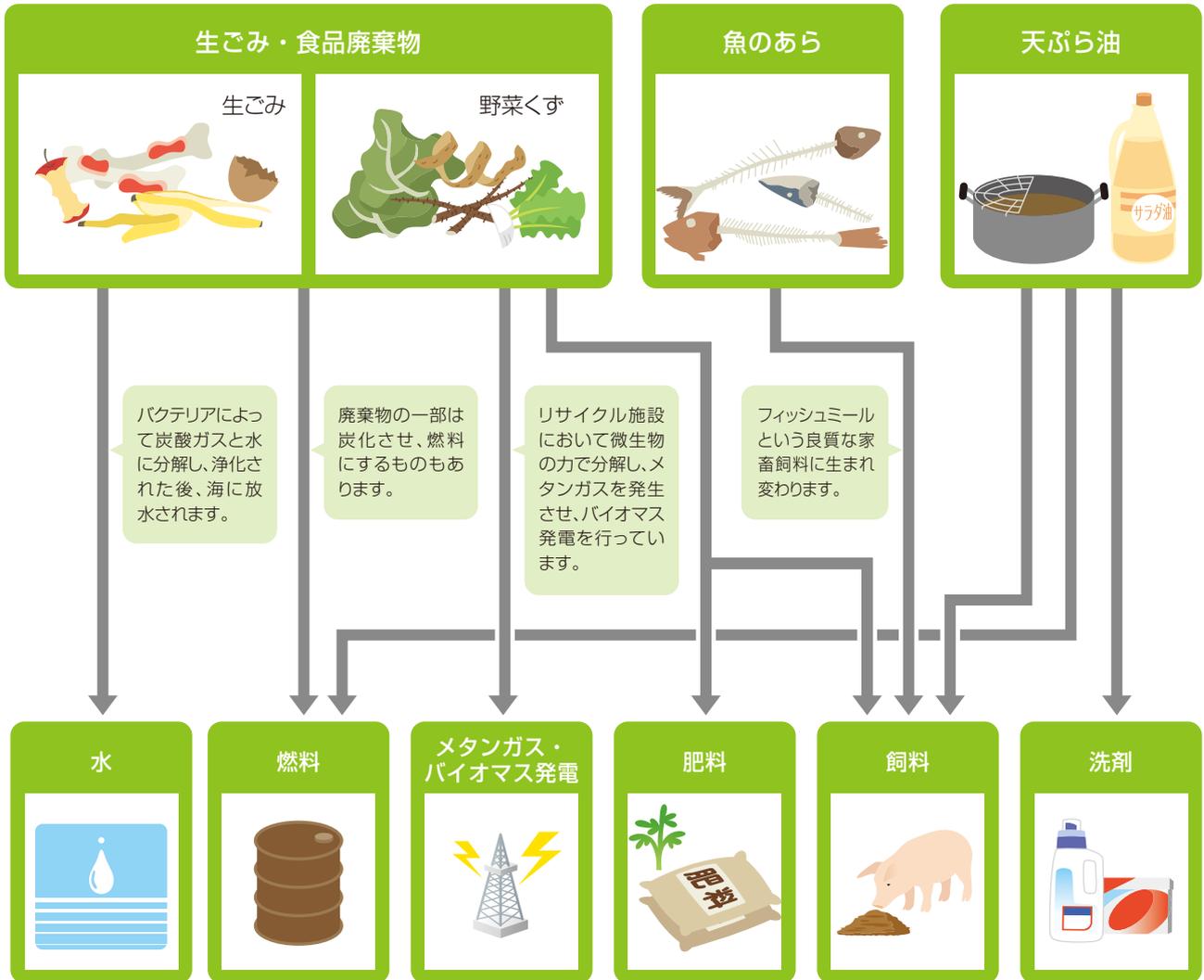
19店舗(2016年10月末現在)の店頭でお客様から使用済みのてんぷら油を回収しています。回収業者に精製を依頼し、液体せっけんにして店舗で使用しています。



廃食用油回収ボックス

■ 食品リサイクル(Recycle)の取り組み

店舗やプロセスセンターでの調理や加工の際、できる限りの工夫を行っていますが、どうしても生ごみが発生してしまいます。また、天ぷらなどを揚げた調理用油も酸化が進む前に交換が必要です。ライフコーポレーションでは積極的にこれらの食品廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。



■ 野菜ごみ処理機

各プロセスセンターでは、生ごみの減量化を目的として「野菜ごみ処理機」を導入しています。1日に3トン以上も出る野菜くずをバイオの力で水と炭酸ガスに変え、消滅させます。



■ ごみ減量優良建築物標章

大阪市から「ごみ減量優良標」を5年連続、または通算して6回贈呈された建築物には、感謝状と「ごみ減量優良建築物標章」が贈呈されます。2015年度は杭全店が大阪市長より、深江橋店・関目店が大阪市環境局長より表彰されました。



■ 資源節約(Reduce)の取り組み

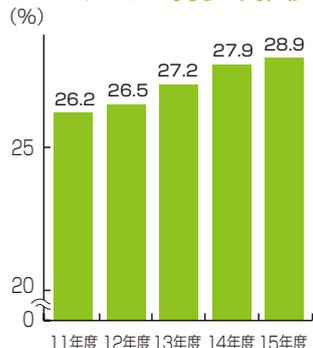
マイバッグ持参運動ーレジ袋の削減へー

レジ袋をご辞退いただいたお客様には、エコ還元として、お会計から2円お引きしています。また、京都市内の店舗では、レジ袋の有料化を実施しています。



各店舗ごとのマイバッグ持参率を集計し、ポスターでお知らせしています

マイバッグ持参率推移



2015年度、全店平均28.9%
(前年より1.0%向上)

地域との活動

CO₂削減のため、お客様・地方自治体と一緒にレジ袋削減の取り組みを積極的に進めています。従業員にもマイバッグの持参を推奨しています。

ラップや包装紙の削減

ラップやトレーは、食品の安全や衛生管理において必要なものですが、ばら売りや簡易包装などにより、積極的に削減を進めています。また、使用するトレーは、強度を保ちながら重量を減らすことにより、資源の節約に努めています。



ノーレジ袋カード



トレー不使用精肉

■ 再利用(Reuse)の取り組み

通い箱(クレート)の利用

ダンボールや発泡スチロールなどの輸送用容器を減らすため、通い箱(クレート)の利用を拡大しています。ダンボールが大半であった野菜や果物でも通い箱を利用しています。また、通い箱には積載効率を高めるため折り畳みコンテナを活用し、配送中は荷崩れを防ぐために布製の備品(ラックサポート)を使用しています。



通い箱(クレート)



ラックサポート

■ 容器包装ダイエット宣言

容器包装ダイエット宣言とは、九都県市(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市)が進めている「容器・包装を簡略化し、ゴミを減らす努力をしていく」という宣言です。ライフコーポレーションでは、マイバッグ持参率の向上や店頭リサイクルに取り組んでいます。



■ 西宮市EWCエコカード

EWCエコカードシステムは、西宮市で1992年に始まった地球ウォッチングクラブ・にしのみや(EWC)の活動の一つです。同カードは学校を通じて西宮市内の小学生全員に配布されています。ライフコーポレーションではマイバッグを持参した子どもたち、牛乳パックやペットボトルなどをリサイクルボックスへ持ってきてくれた子どもたちにエコスタンプを押しています。



品質保証体制

お客様に安全・安心な食品をお届けするために

お客様に「安全・安心」な商品をご提供するために、全従業員が高い意識を持って、品質管理の強化に取り組んでいます。店舗では鮮度管理や衛生管理に徹底して取り組み、清潔でお買い回りしやすい売り場作りや従業員の食品安全の教育に努めています。またプロセスセンターでは、意図的な食品汚染を防止するフードディフェンスの取り組みも推進しています。



放射線検査機器



品質管理点検



計量管理点検

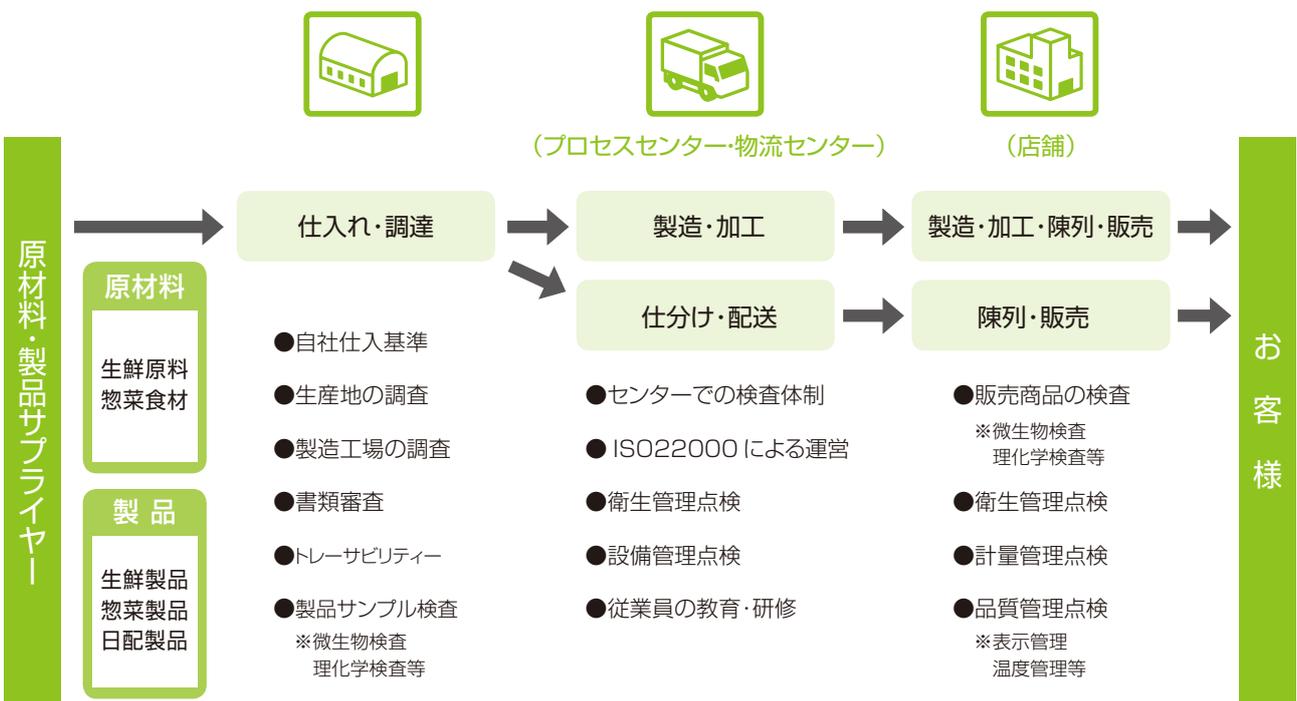


理化学検査



微生物検査

品質保証体制



■ 検査体制

首都圏、近畿圏にそれぞれ商品検査センターを開設し、微生物検査や理化学検査などを実施しています。2015年度は約9,500件の検査を行い、日々商品の安全を確認しています。

■ 仕入れ・調達

専門知識を有したバイヤーが、仕様・原材料の品質・添加物の表示内容・微生物検査結果などが自社基準に適合した安全な食材、製品であることを確認して仕入れを行っています。また、プライベートブランド商品は、品質保証部が、取引開始前に提出された分析結果や原材料・食品添加物の内容、原料原産地証明書などを確認しています。さらに、製造工程などが当社の品質基準に適合しているかを確認するために工場の調査を行い、商品の安全性が確保でき、製造を委託するにふさわしい企業・工場であるかを判断しています。2015年度は約180件の工場調査を実施しました。

■ プロセスセンターにおける製造加工の取り組み

プロセスセンターでは24時間体制で商品を製造し、全店舗へ供給しています。原材料入荷から製品まで徹底した品質管理や従業員の衛生管理を行い、新鮮で安全な商品の生産に取り組んでいます。

そのため、栗橋・南港のプロセスセンターでは、食品安全マネジメントシステムの国際規格である「ISO22000」認証を取得し、品質管理の徹底を図っています。また、船橋・天保山のプロセスセンターも、「FSSC22000」認証の取得を目指し、取り組みを進めています。

■ 仕分け・配送

近畿圏は住之江物流センター、首都圏は松戸総合物流センターを基盤とし、低温管理された環境下で、届いたばかりの商品を素早く仕分けします。新鮮な商品を高鮮度に保ったまま店頭へお届けするために、コールドチェーンを確立し、途切れることなく食品の安全を守り続けています。

■ 店舗における取り組み

店舗では独自の衛生管理マニュアルに基づき、徹底した衛生管理と鮮度や日付のチェックを行い高品質な商品提供に取り組んでいます。また、自社基準に適合した商品を製造するため、自主点検の他に計量士による計量器検査、

また、当社では首都圏の商品検査センターに放射線検査機器を導入しています。「食品中の放射性セシウムスクリーニング法」で自社基準を定め、生鮮食品を中心に検査を行い、基準値を超えていないかを確認しています。



外部機関や品質保証部による品質管理点検を行い、アレルギーなどの表示間違いや異物混入の未然防止、食材の衛生管理を強化し食中毒の防止に努めています。

■ 会社概要

会社名	株式会社ライフコーポレーション
資本金	100億4百万円
設立	昭和31年10月24日
代表者	代表取締役会長兼CEO(最高経営責任者) 清水信次 代表取締役社長兼COO(最高執行責任者) 岩崎高治
従業員数	社員 6,030人 パートタイマー(8時間換算) 18,022人(2016年2月期)
営業収益	6,299億86百万円(2016年2月期)
株式	東証第1部
事業内容	スーパーマーケットチェーン
店舗数	261店(首都圏:113店 近畿圏148店) (2016年10月末現在)
関係会社	ライフ興産株式会社(損害保険等代理業務) 株式会社ライフフィナンシャルサービス (クレジットカード事業および付随する事業)

■ 役員名簿

代表取締役会長兼CEO	清水 信次
代表取締役社長兼COO	岩崎 高治
専務取締役	並木 利昭
常務取締役	幸 英樹 角野 喬 森下 留寿
取締役	内田 良一 西村 寿仁 後藤 勝基 堤 はゆる
監査役	山本 憲史(常勤) 真木 光夫 浜平 純一

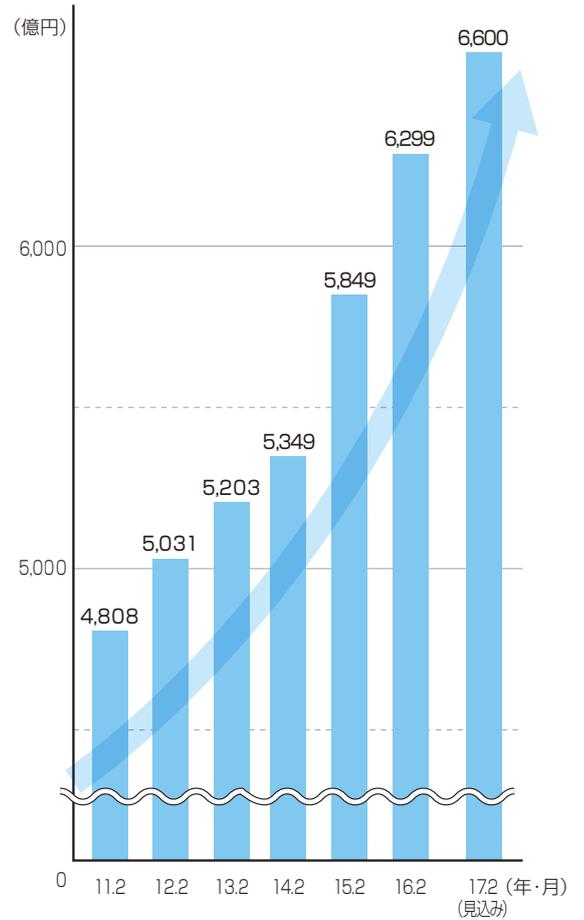


大阪本社
〒532-0004
大阪府大阪市淀川区西宮原2-2-22
TEL 06-6150-6111

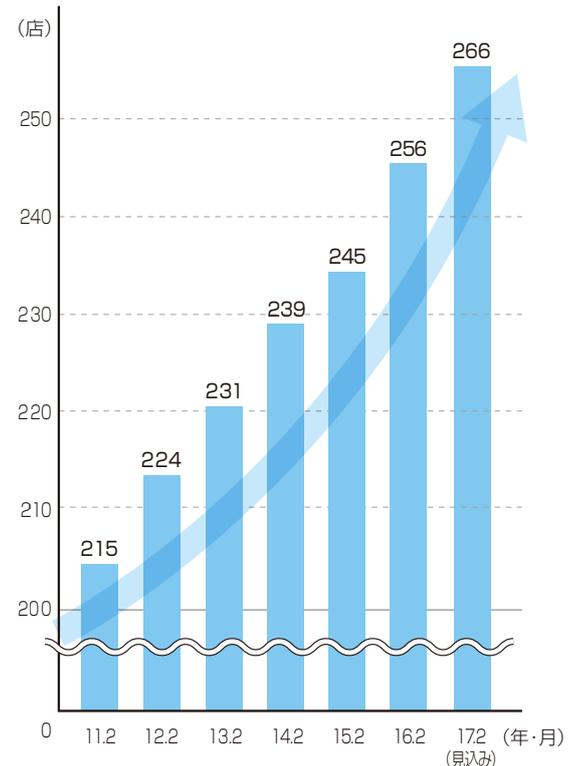


東京本社
〒110-0016
東京都台東区台東1-2-16
TEL 03-5807-5111

■ 営業収益の推移



■ 店舗数の推移



ライフコーポレーションのあゆみ

昭和	
31年 10月	清水信次、清水商店の食品問屋業から貿易部門を分離独立し、ライフコーポレーションの母体となる「清水實業株式会社」を設立
36年 11月	スーパーマーケットの運営を決定。1号店の豊中店(大阪府豊中市)を開店。 ライフコーポレーションのスタートを切る
46年 10月	東京地区本部開設、念願の首都圏進出1号店として板橋店(東京都板橋区)を開店
58年 11月	東証第二部上場
59年 8月	東証第一部上場
60年 9月	近畿圏「南港物流センター」(大阪市住之江区)開設
61年 5月	会長清水信次、日本チェーンストア協会会長に就任
平成	
3年 1月	JR新大阪駅前に本社移転
4年 7月	三菱商事株式会社と業務提携
5年 3月	「怒濤の出店」を開始
5年 6月	首都圏物流戦略拠点「栗橋総合物流センター」稼働
7年 1月	阪神・淡路大震災。伊丹店など7店が一時休業し、39店に被害があったが、いち早く営業再開し、ライフラインの重要な役割を担う
10年 2月	期末店舗数153店。 単月の売上高でスーパーマーケットナンバーワンを達成
11年 2月	期末店舗数171店。 年商3,000億円突破、通期の売上高で日本一のスーパーマーケットを達成
11年 7月	会長清水信次が業界団体の「日本スーパーマーケット協会」を立ち上げ、初代会長に就任
18年 3月	岩崎高治、社長就任 創業45周年記念労使合同セミナー開催
21年 11月	東京本社を東京都台東区に移転
22年 10月	首都圏で日本最大級の取扱規模を誇る「松戸総合物流センター」稼働
23年 2月	プライベートブランド商品を発売
23年 10月	第1号店開店より50周年を迎える
24年 5月	株式会社ヤオコーと業務提携
25年 11月	大阪本社を大阪市淀川区に移転
26年 12月	首都圏「船橋プロセスセンター」(千葉県船橋市)開設
27年 3月	「株式会社ライフフィナンシャルサービス」設立
28年 2月	ライフイメージキャラクター「ララピー」誕生
28年 8月	首都圏「加須プロセスセンター」(埼玉県加須市)開設



これからも「ライフっていいねえ!」とだけ言っていたらダメな会社を目指します

ライフコーポレーション創業記念館

東京本社5階のライフコーポレーション創業記念館は、重厚で豊かな存在感を醸し出す一方、木のぬくもりを感じられる温かなスポットになっています。館内には、宇宙の始まりから現在に至るまでの歴史年表や、ライフの業容の推移、絵画や掛け軸・美術品の数々が展示されています。

